



地元「芦子学区」で 生まれ育った **40歳** 北森あすかです。

6期24年間、地元「芦子学区」のみなさんのお力で市議会に送り出してください、本当にお世話になりました。このたび、40歳で子育てしながら働き、父親の介護を頑張っている、荻窪で生まれ育った北森あすかさんが私の後継者として決意してくれました。法科大学院で法律を学び、正義感と優しさあふれる素敵な方です。北森あすかさんをよろしくお願いたします。

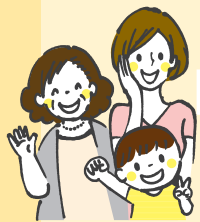
田中利恵子

地元「芦子学区」の
田中りえ子市議から
バトンタッチ



どんなときでも

**「住んで良かった」
と思える小田原に**



富山の薬売りの祖父母が、最初に池上に、次に荻窪に居を構えてから70年。私は、無私無欲で地域に尽くす両親の姿を見ながら育ちました。派遣社員として働きながら、子育て、介護をする中で、見合った労働の対価ももらえず、子育ても介護も公的扶助が不十分。働き詰めの女性を「女性活躍」「輝く」といった空虚なことばで飾ってほしくない。人の尊厳を踏みにじる社会を子どもに残したくない。この思いが、私の日本共産党入党の原点であり、今回、田中議員からバトンを受け取る決意を支えています。地元芦子学区のみなさま、どうぞ宜しくお願いいたします。

党小田原市子育て・労働・介護対策室長 北森あすか

●北森あすかのプロフィール

1983年2月生まれ。
荻窪保育園、芦子小、白山中、県立小田原高等学校、中央大学法学部、同法科大学院修了（法務博士）。自動車メーカーに派遣社員として勤務。夫、子ども（新一年生）、両親と荻窪在住。趣味はスポーツ観戦（特にF1、野球、テニス）、舞台鑑賞、歌うこと。ピアノと書道を約20年習う。

Instagram



@JCPDOWARAASUKA

Twitter



日本共産党

小田原民報 2023年3月号外

日本共産党の見解を紹介します
発行：日本共産党小田原市委員会
住所：小田原市堀之内318-1
電話：0465-20-3261

日本共産党
小田原市議団は

「芦子学区」の住民のみなさん、
自治会のみなさんとご一緒に
様々な要望に取り組み実現してきました。

北森あすかは
地元のみなさんと
ご一緒に引き続き
要望実現に
頑張ります。



- 荻窪公民館出口のミラー設置
- メダカの学校の遊歩道整備
- 小田原山北線の歩道フェンス設置（荻窪地域）
- 丹羽病院前の信号機設置
- 山手橋の廃止計画をやめさせ、建て替えを実現
- 競馬場跡地の急傾斜地の整備
- 小田原駅西口前の傾斜地（愛宕山）の枯れ松撤去
- 久野川護岸整備・治水対策
- 芦子小学校含む、全小・中学校の普通教室にクーラー設置、放課後児童クラブの設置・整備

丹羽病院前の信号機



山手橋



久野川護岸整備



北森あすかのいくつかのお約束

大型再開発より、住民の暮らし・福祉の充実を

少年院跡地や 小田原駅西口再開発は 住民本位で

小田原市は、少年院跡地を「ゼロカーボンとデジタルタウン」のモデル地区として再開発しようとしています。さらに、小田原駅西口の再開発と一体で、周辺の住宅地なども再開発の対象になりかねません。少年院跡地の土地代だけでも約37.5億円以上もかかり、「タウン」全体の整備費用は計り知れません。それだけに、住民説明会や市民の意見を聞く事が求められています。私たち、日本共産党は、大型再開発より、市民の暮らし・福祉の充実を求めています。



出産、子育てするなら小田原

- 保育園待機児童ゼロ
- 小・中学校給食費、幼・保副食費の負担ゼロ
- 18歳までの医療費ゼロ



働くなら、納税するなら小田原

- ケア労働者の責任の重さに見合う待遇を
- 高すぎる国民健康保険料を協会けんぽ並みに引き下げを



高齢者・障がい者と家族の生活を犠牲にしない小田原

- 補聴器購入助成制度の実現
- 重度障がい者医療費無料の堅持
- 特養ホームの増設、待機者解消

国に対して求めています

大軍拡、増税、憲法9条改悪をストップ！
「原発回帰」反対、再生可能エネルギー社会を！
消費税5%への緊急減税、インボイスは中止を！